

面積表

単位：m²

室名	()階	()階	()階	()階	()階	()階	()階	()階	()階	()階	合計
専有部分（県施設）											
計											
専有部分（民間事業施設）											
計											
専有部分（滋賀県信用保証協会）											
計											
専有部分（大津商工会議所）											
計											
共用部分											
計											
合計											

階数については、適宜必要な階数を追加してください。

提案番号：

仕上表

1. 外部仕上表

	仕 上 げ	備 考
屋 根		
外 壁		
外部建具		
外 構		

提案番号 :

(様式 29 - 2)

仕上表

2. 内部仕上表

室名	面積 ㎡	天井高 m	床加重 kg/㎡	床	壁	天井
専有部分（県施設）						
専有部分（民間事業施設）						
専有部分（滋賀県信用保証協会）						
専有部分（大津商工会議所）						
共用部分						

提案番号：

ライフサイクル CO₂ の排出量計算書

LCCO₂ 排出量の算出

計画案の環境への配慮を定量的に把握するため、LCCO₂ の排出量を推計する。なお、その算出方法については、全面的にグリーン庁舎整備指針及び同解説 平成 11 年 -環境配慮型庁舎施設計画指針-(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 社団法人公共建築協会)(以下、「グリーン庁舎整備指針」という。)に基づく方法によることとする。具体的なライフサイクル CO₂ 計算法については、グリーン庁舎整備指針に記載される庁舎版の計算法を用い算出すること。(同指針 p52-84 参照)また、同指針にもとづく計算方法に準拠した市販ソフトの利用により計算してもかまわない。

なお、現段階では設計の前段階であり、実際に整備される施設における LCCO₂ 排出量とのがれが想定されることから、施設設計段階に再度改めて LCCO₂ 排出量を算出し、環境にやさしい施設づくりへの対応を深度化することとする。なお、この段階では、各事業者が所有する独自の計算法等を使用することも可とするが、従来水準との比較および現段階排出量推計との差については説明を求めることがある。

算出する CO₂ 排出量は、以下の 4 項目とする。

1	運用エネルギーに係わる CO ₂ 排出量
2	維持管理に係わる CO ₂ 排出量
3	新営・建替・修繕・改修・廃棄に係わる CO ₂ 排出量
4	設計監理に係わる CO ₂ 排出量

グリーン庁舎整備指針に示される計算方法により、以下の集計シートに数値を記入する。なお、同指針に基づき計算された各段階の計算シートについても添付すること。

ライフサイクル CO₂ の排出量計算書1. 庁舎の LCCO₂ 集計シート

段階	内訳	対策案	参照シート (2)
主要諸元	評価期間	30	
	建替期間	(1)	
設計監理			設計
新営工事	建築 電気 機械 その他		建 電 空、衛、昇
	小計		
建替工事	建築 電気 機械 その他		建 電 空、衛、昇
	小計		
修繕	建築 電気 機械 その他		建 電 空、衛、昇
	小計		
改修工事	建築 電気 機械 その他		
	小計		
維持管理			
エネルギー	エネルギー		
	上水道 下水道 一般廃棄物		
廃棄処分	建築 電気 機械 その他		
	小計		
LCCO ₂ 小計			

(1) 建替期間については、要求水準書を満たしつつ、事業者の提案にもとづく期間を記入すること。

(2) 参照シートについては必要に応じ添付すること。

提案番号：

(様式 30 - 2 [説明書])

ライフサイクル CO₂ の排出量計算書

環境配慮対応建物の総合評価

計画案の環境への配慮を総合的に把握するため、グリーン庁舎チェックシートに計画案の内容を記載する。なお、その記入方法・様式については、全面的にグリーン庁舎整備指針に基づく方法によることとする。(同指針 p85-104 参照)

なお、建物概要に関する記載項目は必須とする。その他について、できるだけ全ての項目について記載することが望ましいが、最低限記入を求める項目として「さまざまな環境負荷削減への配慮度」および「自己評価による得点の算出」を行うこととする。

本様式のうち、当頁については提出しないで下さい。

ライフサイクル CO₂ の排出量計算書

2. グリーン庁舎チェックシート 1999 年版

記入者		記入日	
-----	--	-----	--

建物概要							
建物名称				敷地面積			
建物用途				建築面積			
建設地気候区分				延床面積			
地域・地区				階数			
竣工				構造			
グリーン化指標							
省エネルギー性能				LCCO ₂ 低減性能 (kg-C/年㎡)			
項目	本建物	判断基準	判断基準に対する割合	項目	本建物	標準モデル	割合
PAL			0%	建設時			
CEC/AC			0%	運用時			
CEC/V			0%	その他			
CEC/L			0%	合計			
CEC/HW		---		標準モデル			
CEC/EV			0%	本建物			
その他のグリーン化性能							
地球温暖化	HCFC 類の有無	種類別 / ㎡ 使用料 / ㎡	kg	CO ₂ 換算重量 / ㎡	kg-C		
	HFC 類の有無	使用料 / ㎡	kg	CO ₂ 換算重量 / ㎡	kg-C		
	SF ₆ の有無	使用料 / ㎡	kg	CO ₂ 換算重量 / ㎡	kg-C		
項目	HCFC 類の有無	種類別 / ㎡ 使用料 / ㎡	kg	CFC11 換算重量 / ㎡	kg-CFC11/㎡		
項目	__㎡ / ㎡ (削減率__%)		再生砕石	__m ³ / ㎡ (使用率__%)			
総合得点	平均点 / 10 点						

項目	細目	グリーン化技術の例示	環境負荷							自己評価			採用対策
			地球温暖化	オゾン層破壊	熱帯林減少	資源枯渇	大気水質汚染	固形廃棄物	健康障害	生態系ダメージ	配慮度合	換算係数	
1 周辺環境への配慮	(1)地域生態系保全	自然の地形を生かした配置、緑のネットワーク、ビオトープ、その他											
	(2)都市気候緩和・地下水涵	敷地内緑化、屋上緑化、壁面緑化、透水性舗装、その他											
	(3)周辺環境の汚染防止	水質汚濁の抑制、大気汚染の抑制、土壌汚染の防止、悪臭・騒音・振動・日射生涯・電波障害・地盤沈下の防止、その他(実験排水、廃棄は扱わない)											
2 負荷の抑制	(1)外壁・屋根・床の断熱	高断熱・高气密、外断熱、半地下構造、屋上緑化、屋根散水、躯体蓄熱、その他											
	(2)窓の断熱・日射遮蔽	熱線反射/吸収ガラス、庇、複層/Low- /ヒートミラーガラス、エアフローウィンド、ダブルスキン、その他											
	(3)局所空調・局所廃棄	タスク・アンビエント空調、床吹出空調、局所廃棄、分煙、脱臭便器、その他											
	(4)無駄の回避	混合損失の回避、除湿再熱の回避、配電損失の低減、力率改善、変圧器の損失低減、その他											
運用段階の省エネ・省資源 自然エネルギー エネルギー・資源有効利用	(1)自然採光	自然採光を考慮した窓デザイン、ライトシェルフ、トップライト/ハイサイドライト、昼光運動制御、その他											
	(2)自然通風	自然通風を促進するデザイン(風の塔、光庭等)、ナイトバージ、換気窓・換気ダンパ制御、その他											
	(3)自然エネルギー利用	太陽光発電、太陽空気集熱、太陽水集熱、地中熱、井水熱、河川/海水熱、風力、小水力、外気冷房、冷却塔冷水、その他											
	(1)エネルギーの効率的利用	コージェネレーション(エンジン/タービン)、燃料電池、排熱回収、排気熱回収(全熱交換器等)、その他(下水熱等)											
	(2)不可平準化	水蓄熱、氷蓄熱、潜熱蓄熱、土壌蓄熱、蓄電(NAS電池等)、ガス冷房、その他											
	(3)搬送エネルギーの最小化	VAV、VWV、換気量制御(CO/CO ₂)、衛生動力の省エネ、昇降機の省エネ、その他											
3 長寿命	(1)ゆとりの確保	階高のゆとり、床荷重のゆとり、敷地面積のゆとり、述床面積のゆとり、その他リニューアルへの考慮											
	(2)建築材料の合理的耐久性	耐久性/耐震性/耐火性/保守性に優れた材料、耐久性を高める構法、部分更新容易な構法、その他											
	(3)設備材料の合理的耐久性	耐久性/耐震性/耐火性/保守性に優れた材料、耐久性を高める材料の使い方、交換容易な構造、その他											
4 アルコマテリアリ	(1)低環境負荷材料	自然材料(木材)、自然材料(石材他)、使い捨て材料の最小化(エアフィルタ等)、リサイクル困難材料への配慮(FRP、VLP等)、人体に無害な材料(VOC発生のない建材の採用、石綿等への配慮、EMケーブル)、その他											
	(2)熱帯材型枠の使用合理化	型枠転用回数の増加、各種代替型枠、PC化、その他型枠を使用しない工法											
	(3)副産物・再生資源の活用	高炉セメント等、電炉鋼等利用範囲拡大、再生砕石・再生資材、汚泥焼成レンガ、その他再生資源の活用											
	(4)解体容易な材料・構法	定尺を考慮したモジュール設計、標準化設計、その他											
5 計適正処	(1)廃棄物の削減	分別収集を考慮した設計、ゴミ搬送システム、生ゴミの処理、その他											
	(2)建築副産物の発生抑制・再資源化	分別収集の徹底・再資源化、適量購入・梱包レス化、プレハブ化、仮設資材への配慮、発生土適正処理、その他											
	(3)ノンフロン化・フロン回収	代替フロン冷媒、ノンフロン冷媒、代替ハロン消火、代替フロン断熱材、ノンフロン断熱材、フロン回収を考慮したシステム、その他											
10 点満点表示にするための換算係数			0.3	5.0	5.0	0.2	5.0	0.6	2.5	1.7			
さまざまな環境負荷削減への配慮度(10 点満点)			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

提案番号: